

# 校長室の窓から

尼崎市立武庫東中学校 NO.20

平成24年 3月12日

校長 小谷 豪 郎

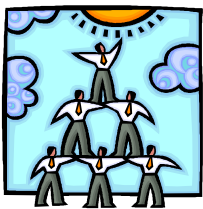
## 第34回卒業証書授与式 式辞 抜粋

例年になく、寒さの厳しい冬から解放され、穏やかな春の日差しが少しずつ感じられるようになって参りました。

本日、ここに中学校3年間の課程を修了し、先ほど卒業証書を授与された217名の皆さん、卒業おめでとう。心からお祝い申し上げます。

昨年は、卒業式の午後、日本中が恐怖と絶望に包まれた、東日本大震災が起こり間もなく1年が過ぎようとしています。約1万6千人もの命を奪い、今なお、3千人を超える行方不明者がいらっしやいます。地元では、学校が再開され、避難所から仮設住宅へ、少しずつではありますが復興へ向けて着実に歩んでおられます。しかし、多くの方々や子どもたちが、普通の生活を普通に出来ないという状況が、まだまだ続いています。このような中、学校で普段通りに学べ、普通のことが普通に出来、無事に卒業式が迎えられるという環境にいることに感謝の気持ちを忘れないで下さい。

さて、私が君たちとすてきな出会いをしてから早1年、新緑に包まれた九州の大自然の中、仲間と民泊をして初めて の農業体験、楽しい思い出一杯になり無事成功に終わったかと思っていた修学旅行では、帰路につく頃から気持のゆるみが出て新幹線の車内でのマナーや移動中のだらしない服装など、学校に到着してからお説教で締めくくることになってしまいました。しかし、雨で日程変更になった体育大会では、練習時間の少ない中、本校では、久しぶりの組体操に学年全体が一丸となって取組、立体ピラミッドを見事に完成し、見る者すべてに感動を与えました。



また、真夏の日差しの中、3年間の部活動の集大成として頑張った、中体連の総合体育大会、市内、阪神、県、近畿、全国へとそれぞれが十分に力を発揮して結果を残してくれました。そして、文化発表会の合唱コンクールでは、すべてのクラスが心を一つにして素晴らしいハーモニーを聞かせてくれました。審査をしている私としては、どのクラスが代表になってもおかしくないほどの完成度に感動を覚え、鳥肌が立つ中、優劣をつけるのが心苦しかったことを覚えています。

また、成績発表の時、最優秀を受けたクラスの歓声、それとは逆に惜しくも届かなかったクラスで涙する生徒の光景も忘れられません。

君たち卒業生は、共に手を取り合い、心を一つにして取り組めば、これだけのことができるんだ、ということ、人と人の絆の大切さ、を後輩たちに素晴らしい手本として示してくれたと思います。

私はわずか1年でしたが君たちと出会えて本当に良かったと思います。そして、新しい世界へと歩みを進める君たちへ、今から最後のお話をしなければなりません。

君たちが歌う「YELL」の歌詞にもあるように、翼はあるのに飛べずにいる、一人になるのが怖く



つらくて、優しい陽だまりに肩寄せる日々、このような仲間と共に過ごしてきた君たちも、いよいよ一人一人が新しい世界に向かって、飛び立つときがやってきました。歌詞はさらに、さよならは悲しい言葉じゃない、それぞれの夢へと僕らをつなぐ、エール、だと、さらに、共に過ごした日々を胸に抱いて飛び立つよ一人で。と続きます。

つらいこと、しんどいこと、泣きたいこと、それを我慢し辛抱して乗り越えた者だけが達成感を得ることが出来ます。何事も、自分のことは、自分でやり遂げなければなりません。努力すれば報われるといわれますが、そうとは限りません。それが現実です。しかし、成功するためには努力をしなければならぬこともまた事実です。

あきらめずに投げ出さずに一生懸命に取り組む者には、必ず良き理解者が現れて、いざというときには、手助けをしてくれます。しかし、君たちの理解者、手助けをしてくれる人は、時には、鬼のように見えることがあるかもしれません。学校で先生に指導されたとき、家でお父さんお母さんに叱られたときのことを思い出して下さい「うざい」とか「嫌だ」とか思った経験があるでしょう。しかし、鬼でなければ、鬼にならなければ救えないこともあります。恐ろしい姿で厳しいことを言う。そうしなければ助けられないことがあります。逆に優しい姿と言葉で君たちを地獄へ落とす者がいるということも覚えておいて下さい。



次に、『命の教育』の講演会で助産師さんから学んだことを思い出して心の中に大切にしまっておいて下さい。そして、この式が終わりお父さんやお母さんに会ったときに心を込めて『ありがとう』の一言を伝えて下さい。「這えば立て、立てば歩めの親心、我が身につもる、老いを忘れて」という言葉があります。お父さんとお母さんが出会い、何億分の一の確率で生まれてきたあなた。あなたのお母さんは、あなたを命がけで産んでくれました。そして家族はその小さな命の成長を、自分の命を捨てても惜しくない、そのような覚悟で見守り支えて来たことでしょ

う。雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日も、あなたの笑顔を見ては喜び、ふさぎ込んだら心を痛み、ひたすらあなたの成長を願い今日のこの日を心待ちにしていたことでしょう。あなたもやがてそんな家族を持って守って行かなければなりません。ぜひ言葉に出して「ありがとう」の一言を言ってほしいです。



また、9年間の義務教育を終了し社会の形成者の一員として生きていくためにもさらに自分を鍛えてください。これからは君たちの時代。君たちが未来を創り上げていく責務を負っています。4月からは、高校生。まだまだ学ばなければならないことがたくさんあります。知識を蓄え、心を養い、体を鍛え、さらに一回り成長していく時期です。そのような時にも天の恵み、地の情け、人の慈しみ、中でも、親・家族の慈愛への感謝を忘れないようにしてください。人間は一人では生きていきません、友だち、家族、学校の先生、地域の色々な人との関わりがあり、多くの人たちに支えられていることを改めて認識し、その人たちへの感謝の心と態度を身につけておいてください。

第34期生に幸多かれ。これもちまして、式辞とします。

平成24年3月9日

尼崎市立武庫東中学校  
校長 小谷 豪 郎